



にしかわ ようこ
看護師 西川 洋子さん

インタビュー

在宅医療・介護を支える

訪問看護師の役割

「病気や障がいがあっても、住み慣れた地域や家で暮らしたい」 そのように望まれる方が在宅で療養生活を送れるように、医師の指示を受けた看護師等が自宅に訪問し看護ケアを提供するのが訪問看護です。今回は、訪問看護サービスを利用されている利用者と医療法人桜木記念病院 訪問看護ステーションの西川洋子看護師にお話を伺いました。

訪問看護の役割・大切にされていることは？

病気になっても、大半の方が自宅で過ごしたいと望まれています。訪問看護師は、そんな方々の思いをくみ取り、「自宅で過ごす」という願いを叶えるため、医療的な視点で生活を看て、関係職種と連携しながら医療と介護の橋渡しをすることが役割だと思っています。訪問すると、ご本人や家族の深い問題や悩みに触れることがあります。だ

からこそ、ご本人との対話を大切にし、その方の生活背景にも目を向けた対応を心がけています。高齢の方は人生の先輩ですから、敬う気持ちを忘れず、より良い関係を築きたいと思っています。こちらの利用者様宅には、週2回訪問し、体調チェックや服薬管理、清潔援助等のサポートをしています。最近、高齢者の一人暮らしや老老介護のお家が増えてきていますが、介護保険サービスを利用しながら自宅で過ごすための必要なサポートが提供できるよう頑張っていきたいと思っております。

利用者様の声

看護師さんが本当に良くしてくれるので、訪問の日を楽しみに待っています。来てもらうことで、自分でもこうしてみよう、と勉強になりますし、看護師さんがあたたかく接してくれるので安心してお任せできます。